

今年 7 年度南三陸町議会 9 月会議 一般質問通告書

通告 1 番 佐藤 雄一 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問件名 町内に高齢者福祉施設を誘致する考えはないか

質問の相手 町長

質問の要旨 本町での高齢化率が 40%を超えた現在、今後も利用者が多くなる見込みが予想される中、町内に高齢者福祉施設を誘致して、一人でも多くの方々が利用でき、待機者を少なくし、家族が安心して仕事や生活ができるような環境整備を重点目標に置くべき時期に来ているのではないかと考えるが町の考えは。

2 件目

質問件名 震災後に建てられた木造公共施設の点検・管理状況は

質問の相手 町長

質問の要旨 戸建住宅、その他の木造工作物も住宅においては瑕疵担保期間も終わり、そろそろ点検する時期が来ていると思う。一定の年数が経った多くの木造工作物は表しが多く、雨風が当たり、表面が傷んでくる時期を迎え、管理物件の点検をする必要があると思うが町の考えは。

通告 2 番 阿部 司 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問件名 持続的出生数維持の考えについて

質問の相手 町長

質問の要旨 厚生労働省が発する人口動態統計の数値においては国内の出生数が大幅に減少し、地域社会に多大な影響を与えるものと考ええる。

ついては、町の現況と今後の対応及び政策の考えを伺う。

- 1 県下 2 位の合計特殊出生率の要因について
- 2 直近 5 年間の人口動態と年間出生数の推移について
- 3 出生数維持に向けた課題と今後の主たる取り組み政策について

2 件目

質問件名 高齢者単身世帯について

質問の相手 町長

質問の要旨 地方の人口減少は年を追うごとに深刻化し大きな社会問題になっている。こうした背景のもと、少子化や非婚化の進行により高齢者単身世帯の増加が懸念されることから以下の点につき考えを伺う。

- 1 当町における高齢者単身世帯の状況について
- 2 孤独・孤立対策推進法の取り組み状況について

3 今後の身寄りの無い高齢者に対する支援の考えについて

3 件目

質問件名 ふるさと納税の受け入れについて

質問の相手 町長

質問の要旨 総務省によると、ふるさと納税の取扱額が令和2年度から6年度まで連続5年間過去最高を更新したと発表された。

ついてはこうした社会情勢の下、当町の状況と今後の取り組みにつき以下の点を伺う。

- 1 令和2年度からのふるさと納税の受け入れ状況について
- 2 ふるさと納税増加自治体の要因分析と当町の課題について
- 3 今後の取扱い目標設定の考えについて

通告3番 佐藤 正明 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問件名 農業耕作の課題について

質問の相手 町長

質問の要旨 当町の農業耕地は中山間地で多くを占めている。近年の気候変動の影響などで水稲耕作が非常に厳しい状況下の中でも耕作を続けていることから、次の点について伺う。

- 1 渇水の時期が長く続いており、稲作の耕作は厳しい状況下である。今後、耕作を進めていくための支援対策を。
- 2 6期目、中山間地域等直接支払制度が継続となったが、団体と面積数の変動は。また、管理内容などの変更はあるのか。
- 3 年々、全国で所有者不明農地が増加傾向にあるようだ。当町の状況と今後の対応策の考えは。

2 件目

質問件名 河川管理について

質問の相手 町長

質問の要旨 令和元年の台風19号や翌年9月には線状降水帯の豪雨と濁流で河川災害が発生した。これまでの豪雨などの影響で被災した護岸と取水堰の復旧状況について、次の点を伺う。

- 1 県管理の河川にある小森・大平・田表の取水堰の現状と今後の対応策は。
- 2 台風19号で発生した流木などの処理状況は。
- 3 台風シーズンを控え、河川管理対応の考えは。

通告4番 菅原 辰雄 議員

質問方式 一問一答

質問の相手 町長

1 件目

質問件名 k i z u n a 留学生受け入れ体制は

質問の相手 町長

質問の要旨 町では人口減少・少子化などで南三陸高校の定員割れが常態化し、高校の存続が危惧され、それらを回避するため高校魅力化事業・懇談会を設立し、県内初の公営塾「志翔学舎」を立ち上げるなどの対策を講じて来た。更に令和5年度から生徒を全国から募集するk i z u n a 留学生制度を設けて本年度4年目を迎え、1学年・2学年・3学年が揃って、毎日楽しく生活を送っているものと認識のもと次の点を伺う。

- 1 k i z u n a 留学生は各学年12名として36名を受け入れる体制を構築すべく寮の追加建設を目指して来たと認識しているが、現状と今後の対応策を伺う。

2 件目

質問件名 町内河川の洪水対策

質問の相手 町長

質問の要旨 近年温暖化の影響によるものと思われるが、全国各地で集中豪雨が頻発している。同時に線状降水帯が発生し大雨による洪水などの大災害が発生し、尊い生命が奪われ大事な財産が失われている。こうした水害はいつどこで発生しても不思議では無い現状を踏まえ次の点を伺う。

- 1 町内河川は適正な規格・構造で管理されているのか。
- 2 以前氾濫した2級河川八幡川の上流部を含め氾濫対策は十分か。

通告5番 後藤 伸太郎 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問件名 防災・減災の取組について

質問の相手 町長、教育長

質問の要旨 7月30日、ロシアのカムチャツカ半島で発生した地震により、広い範囲に津波警報が発令された。町では災害対策本部を立ち上げ対応にあたり、大きな被害はなかったものの、課題も見えたことと思う。民生教育防災常任委員会での調査も踏まえ、安全・安心なまちづくりのための取組について伺う。

- 1 津波による被害と復旧状況は。
- 2 災害対策本部の運営における問題点は。
- 3 長引く警報の発令中、学校などの対応は適切だったか。
- 4 ペットを連れて避難することへの対応は。
- 5 進入路が一本しかない高台団地の安全確保の状況は。

2 件目

質問件名 南三陸高校の全国募集について

質問の相手 町長

質問の要旨 3月会議でも一般質問したが、k i z u n a 留学生の受け入れについて、

希望者にはできる限り受験してもらい、南三陸町で是非学んでほしいと思う町民は多い。来年度、何人受け入れられるのか。

通告 6 番 今野 雄紀 議員

質問方式 一問一答

質問件名 医療行政について

質問の相手 町長

質問の要旨 西洋医学のような医者本位の治療も大切だが、自然治癒力を大切にする患者本位の医療も必要ではないか。患者の心身両面ケアできるという統合医療を公立病院でも導入する必要性、可能性などについて伺う。

- 1 公立病院への統合医療導入への必要性、可能性について
- 2 健康増進、維持のための予防医療への取り組み状況、課題について
- 3 持続可能な病院を目指すためのオンライン診療への取り組みの必要性について

通告 7 番 伊藤 俊 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問件名 産業の持続的承継と発展に対する取り組みは

質問の相手 町長、教育長

質問の要旨 町の産業、経済活性化を図るうえで事業の承継と持続的発展をどのように考えていくか重要課題の一つであるものに、課題解決の姿勢、積極的な取り組みが十分ではないと感じている。

人口減少社会における環境的、社会的要因は厳しさを増しているのも事実だが、震災復興事業が終わり、持続的な自立発展へ向かって進んでいくためには「産業を繋ぐ」「人を繋ぐ」仕組み、それを下支えする政策を打ち出すことは行政の責務であり、必要と考えるため以下の点について伺う。

- 1 第2次・第3次産業分野の事業承継対策について現状の取り組みは。
- 2 さんさん商店街、ハマーレ歌津商店街の持続的発展を図るためには。
- 3 公共施設の指定管理制度について課題は。

2 件目

質問件名 財政力指数の改善・向上を図るために

質問の相手 町長

質問の要旨 人口減少が進む中で地方自治体が十分な住民サービスの提供や様々な政策実現のためには、それを可能とする財源確保が必要であるが、当町の財政力指数は総務省のデータによると全体的に全国・宮城県内の平均に比べ低い水準で推移している。

持続可能な財政基盤を確立するため、職員個々の意識改革を推進していく

ことはもとより、新たな歳入の確保、歳出の抑制を着実に実施していくことは町長の施政方針でも謳われていることから、財政力指数を高めていくことは改善努力の見える化に繋がっていくと考え、以下の点について伺う。

- 1 復興事業を終えて、現状の財政力指数値をどう考えているか。
- 2 数値改善のための方向性を示すべきでは。

通告 8 番 及川 幸子 議員

質問方式 一問一答

1 件目

質問件名 森林管理について

質問の相手 町長

質問の要旨 林業振興については、各自治体がそれぞれ実施されているが、当委員会では高知県内の 2 町を先進地視察した。どちらも林野面積は当町よりも多く石高でも勝っていた。国の制度を使い如何に林業振興充実に向けて取り組んでいるか伺えた。30～40 年先を見越した施策が大事であるが、民間の力も必要不可欠なので、次の点について質問する。

- 1 当町の今後の施業計画は。
- 2 伐期をむかえた面積は。(4 地区それぞれ)
- 3 植林についてはどのような計画内容か。
- 4 森林管理に関わる事業は森林組合が主に担っている状況だが、今後の見通しを伺う。

2 件目

質問件名 津波警報の対応について

質問の相手 町長

質問の要旨 7 月 30 日のカムチャツカ沖地震の時の対応では、津波警報から注意報と 2 日間掛かり町民の皆様も振り回されいろいろな声が聞こえてきました。今後の教訓になればと思い、次の点について伺う。

- 1 名足地区と泊地区の避難道の必要性が大です。特に先日のカムチャツカ地震による津波警報で顕著に現れたので、再考をしては。
- 2 津波警報で陸間が自動的に閉鎖されることも安心されるが、車や人が取り残される弊害も見られたので、関係機関との連携を伺う。

3 件目

質問件名 町の観光産業について

質問の相手 町長

質問の要旨 当町の化石ブームが最高潮となり観光面では成果の波及効果に期待します。そのような中で魚竜館の復旧が必要と考え、次の点について伺う。

- 1 ハマーレ公園の利活用にも影響がありますので魚竜館はぜひ必要で、公園側を利用すべきと思うが。
- 2 ハマーレ歌津の来客が少ないが誘客を増やすには海産物を販売する店が少ないのも要因ではないか。